

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31 年 3 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100942		
法人名	社会福祉法人フェニックス		
事業所名	グループホームかんべの里		
所在地	広島市安佐北区可部七丁目13番15-1-9号 (電話) 082-554-8800		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100942-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成31年3月28日（木）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・地域との相互交流 ・利用者の残存機能を生かした生活スタイルの確立 ・法人が運営するケアハウスでの交流 ・認知症カフェの毎週開催 ・自家栽培した野菜などの食事提供

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

GHかんべの里は、鉄骨造りで3階建ての2,3階部分を使用しており、1階は、地域密着型デイサービス・放課後等デイサービスを併設して、時には、共有の畑等で、共同作業する事もあり、野菜や芋の収穫を一緒に行い、食卓にも並ぶ。法人の理念である「心ゆたかに 心やすらかに 心たのしく」を掲げ、認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営むことを支援している。又、行事に参加したり、利用者同士オセロをしたり、談話されながら、一日の時間が、ゆったり流れている。

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくし)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「こころ ゆたかに やすらかに たのしく スタッフはこころやさしく」を理念として、管理者と職員は実践している。	法人理念の下、各ユニットでも、目標を定めている。「(れんげ)心身を健康に心を癒し満足できる毎日を送る。(つくし)臨む生活を意欲向上に繋げる。」を掲げ、朝礼時に唱和し、ミーティング時に話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の地域住民に認知症を正しく理解してもらえるよう、隔週地域交流カフェを開催し、地域住民も参加していただいている。町内会のふれあいクラブに参加している。	町内会に加入し、地域の秋まつりで神輿を迎えたり、月2回、わすれな草のサロン参加・ふれあいクラブのクリスマス会、お花見会に参加、又、地元の小・中学校の生徒さんによる劇・歌の披露、子供たちとの交流で、昼ごはんを一緒に食べたり等、積極的に交流している。	地域行事によく参加されているが、外部から来てもらう事が多く、こちらから積極的に出向いて、ホームをよく知ってもらう事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議。地域交流カフェを開催し、地域の方、入居者家族との交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会、民生委員、教育機関、地域包括支援センターなどの住民、福祉、教育機関と共同で、活動報告、地域活動を報告を協議し取り組んでいる。	地域包括支援センター職員・民生委員・中学校校長・同業施設の代表・利用者・家族・施設長・ホーム長等が参加し、行事報告・地域と交流状況・事故報告・参加者からの意見交換や助言を頂き、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者と連絡を取り、相談にのってもらっている。	市町担当者には、運営推進会議の開催案内や議事録を送付している。又、分からない事があれば、電話や出向いて相談したり、助言を頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束廃止委員会を設立し、マニュアルの作成、チェックリストでの確認をしている。身体拘束の研修参加や、法人内研修を開催している。	法人で身体拘束廃止委員会を設立し、2ヶ月に1回、会議を行い、グループホーム会議で、伝達している。日頃からスピーチロック・ドラックロック等は、しないようお互い注意し合っている。現在身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で虐待防止委員会を設立し、マニュアルの作成、チェックリストでの確認をしている。虐待防止の研修参加や、法人内研修を開催している。日頃から、入居者の身体、対応方法を申し送り確認している。		

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくり)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している入居者もあり、勉強会を通して知識の向上に努めている。必要があれば、活用できる支援をしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に、入居者、家族に十分に説明を行い、理解、納得され、同意をいただいている。質問、不安に思われる事は、ご理解いただくまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話、面会時に気軽に意見、要望を話していただける様にし、反映をさせている。	家族の訪問時に職員側から声を掛け、思いが出せるよう、そこで家族の意見や要望を聞いている。又、かんべの里だよりを毎月作成し、ホーム内の様子を定期的にお知らせし、喜んでもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議、運営会議を月に1回以上開催し、職員からの意見、提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム長は、日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、又、グループホーム会議・運営会議時にも職員から意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価表を用い、人事考課面談を行い、管理者、職員の意見を取り入れ、実績や努力を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で研修委員会を設置し、月に1回以上法人内研修を実施し、外部研修、事業所内での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣施設に対して、見学機会を設けたり、日ごろの悩みを相談できるような取り組みに努力している。		

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくし)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、入居者、家族に面談を行い、本人、家族の思い、要望を聞き取り、安心した生活作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、入居者、家族に面談を行い、本人、家族の思い、要望を聞き取り、安心した生活作りに努めている。事前に見学対応、入居後もスムーズに慣れていたけよう、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望の段階で本人、家族の「困っている事、不安に思っている事」を聞き取り、サービス利用時に何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に暮らしていく生活の場として、食事、家事などを一緒にしていき、共感する事で、共に暮らしていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な家族への手紙、状態や変化の様子を伝え、家族にも関わっていただけるようなケアや気軽に面会に来ていただける様、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者制限を設けず、これまでの関係性を大切に、気軽に知人に電話など、本人の望まれる関係を続けていけるよう支援に努めている。	友人・知人・親戚等との面会も自由に行ってもらっている。家族と外泊して、墓参り・馴染みの美容院等に出掛けたり、カフェで馴染みになったり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を把握し、席の配慮、職員が橋渡したり、レクリエーションを通じて社会性を持ってもらい、孤立しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了しても、必要に応じて、家族のフォロー、相談に努めている。		

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくし)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者からの希望、意向を聞き取り、困難な場合には、家族に相談や本人の思いを汲み取りながら取り組んでいる。	日々の生活での言動から利用者の思いを察し、ミーティング・カンファレンス等で、情報を共有し、本人の意向に添った生活がおくれるように支援している。(大正琴・法人で行っているコーラスに参加・オセロゲーム・畑仕事等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談、本人の関わりにより、これまでの生活習慣の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送り、介護記録を基に、入居者の心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の希望、現状をアセスメントし、本人、家族の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	ケアプランは、本人や家族と日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させている。又、定期的にカンファレンスを開催し、課題の克服に向け活発に意見を交換し、それを元に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送り、介護記録を基に、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族からの希望を聞き取り、都度、多様なニーズに対応出来る様、柔軟な姿勢で取り組む努力はしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状の地域支援を把握し、地域交流カフェ、地域ボランティアを利用しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関からの往診やかかりつけ医での往診を活用し、適切な医療を受けられるように努め、家族の協力による受診など、医療連携ファイルを用意し、連携に努め、迅速な対応が出来る様、支援している。	協力医療機関の医師の往診が、2週間に1回、訪問看護の往診も2週間に1回、歯科医は、週に1回の往診がありその他、希望する医療を受けられるよう支援に努めている。	

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくり)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携ファイルを活用し、協力医療機関などの、訪問看護、施設看護師と常に連携を取り、早期対応、適切な受診や看護をうけられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状、入居者にはいないが、訪問看護事業所施設看護師と日頃から相談しやすい環境作り、コミュニケーションを図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を本人、家族と共有し、意思の尊重をすることを目標とし、ホームでの希望をされる場合には、事前説明、確認、同意を取り、関係者と共に支援に取り組んでいく。	契約時に「重度化や終末期に向けた指針」について説明し同意をもらっているが、状況変化に応じて気持ちの確認をしている。今までホームでの看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル整備、救命救急講習の受講を行い、全職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜別で消防避難訓練を、他事業所との連携を取りながら、地域住民の方も交え実施している。	年2回、避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。訓練には、利用者や地域の方も一緒に参加しており、協力体制もある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬いの気持ち、排泄、入浴ではプライバシーを損ねない様に配慮し、自己決定出来る様に努めている。	プライバシー保護・接遇の法人研修を実施しており、ホームでの伝達研修も行っている。個人情報の取り扱いや言葉遣いにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の思いや希望を聞き取り、喜び、楽しみが表現出来る様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペース、生活リズムを尊重し、都度お伺いし、自分の意思、自己決定にて支援している。		

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくり)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容、家族の協力の元、いきつけの美容院、更衣時は、衣類は本人に選んでもらい、その人らしい、おしゃれを楽しんでいただける様、支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の残存能力に応じて、一緒に行っている。季節に合わせた食材、畑と一緒に収穫した野菜での食事の提供を心掛けている。利用者の重度化、個々の能力に差があり、出来る事が少なくなっているが、少しでも関わっていただけるよう努力していきたい。	食材は外部委託しているが、時には自前の畑で出来た野菜を使用し、利用者も皮むきや手作りのおやつ等出来ることを職員と一緒にしている。目先を変え、出前を取ったり、外食もする。又、安佐動物公園や土師ダムに出掛けた時には、現地で食事を取ったりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の状態、好みに合わせ、バランスを取りながら行っている。メニューへのカロリー表示と都度、記録に記入しながら、職員間の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科訪問診療のケアで支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレ誘導を行い出来る限り、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量、食事の摂取量など日々の記録で排便状況を把握し、散歩や体操など体を動かす事で予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回入浴日を設け、その日の状況、体調、気分に合わせて入浴支援を行っている。実施できない場合は、日にちを変え対応。	入浴は、週2回を基本に利用者の体調を確認し、一人ひとりの状況やタイミングに合わせて入浴の支援を行っている。風呂嫌いの方は、職員を代えたり、声掛けしながら、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご自身で使用されていたベッド、家具など持ち込んでいただき、安心して、くつろいでいただけるような空間を作り、夜間定期巡回での、温度設定、寝具の調整をし安定した睡眠を支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬には十分に注意し、薬剤情報(目的、副作用など)理解し、一人ひとりの薬ボックス用い、日付、名前を職員2名での確認に努めている。		

グループホームかんべの里

自己評価	外部評価	項目(つくし)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力に合わせて、家事仕事を一緒にを行い、クラブ活動、サロン参加の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の買い物、散歩、畑仕事、地域交流カフェや地域行事の参加により楽しみのある生活が送られるよう支援している。	近隣の散歩・日用品の買い物・地域行事の参加等、利用者の体調、天候を見ながら、出来るだけ外気に触れる機会を増やすよう努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症により、金銭管理が困難な入居者はいるが、家族理解の元、多少の現金を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望の元、電話の授受、手紙のやりとりのお手伝いの支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに畳やソファを設置し、過ごしやすい空間作り、個人の居室には好みの物、馴染みの物を置き、環境作りに努めている。	対面式キッチンと一体型になった開放的なリビングルームにテーブルや椅子やソファが配置され、一部畳コーナーになっており、懐かしい台所の匂い、大きな窓から心地よい採光が差し込み、過ごしやすいスペースとなっている。室内には、手作りの壁面やぬり絵・行事写真等、飾っており、家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアのリビングには、ソファやテレビを設置し、窓からは畑が眺められ、日中は思い思いに過ごされている。入居者同士の繋がりを大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく、自宅で使われていた馴染みのある物を持って来ていただき、家庭での延長の様な、居心地のよい、空間作りに努めている。	利用者にとって使い慣れた家具や生活用品・好みの作品・家族写真・手作りの雛人形・仏壇・時計が持ち込まれ利用者にとって、居心地よく安心して過ごせるスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所に手すりを設置、車椅子や歩行器など安全に利用できるようにバリアフリー化され、見守りや付添いを行いながら、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

Ⅴ アウトカム項目(つくし)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームかんべの里

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかんべの里

作成日 平成 31 年 3 月 29 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域行事に参加、地域交流の参加が少ない。	地域交流の参加をする。	地域交流の場に出掛け、認知していただく。	6ヶ月
2	13	現存職員の能力差があり、事業所の理念に沿った業務が行えていない。	入居者に十分なサービスが行え、職員、入居者と共に、いきいきと生活していける様な支援をしていきたい。	職員教育システムの構築。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。